

## 翻訳／誤訳 (3)

倉田 清

文学作品、ことに、詩を翻訳するのがきわめて難しいことは、誰でも知っている。言語構造のまったくちがう英語やフランス語から、日本語のリズムや語感を考慮しながら訳すわけで、とにかく、原語の大きな理解力と、日本語の卓越した表現力が必要である。

まず、名訳と言われている例を挙げてみよう。原詩はフランス象徴詩の傑作の一つで、日本でもよく知られているヴェルレーヌ (Paul Verlaine, 1844-1896) の「秋の歌」(Chanson d'automne) の上田 敏と堀口 大学の訳である。

原詩は、次のとおりである。

### Chanson d'automne

Les sanglots longs  
Des violons  
De l'automne  
Blessent mon cœur  
D'une langueur  
Monotone.

Tout suffocant  
Et blême, quand  
Sonne l'heure.  
Je me souviens  
Des jours anciens  
Et je pleure.

Et je m'en vais  
Au vent mauvais  
Qui m'emporte  
Deçà, delà,  
Pareil à la  
Feuille morte.

これに対して、上田 敏は、明治38年に『海潮音』で、また、堀口 大学は、大正14年に『月下の一群』で、それぞれ特異な優れた訳を示している。

落 葉  
上田 敏

秋の日の  
ギョロンの  
ためいきの  
身にしみて  
ひたぶるに  
うら悲し。

鐘のおとに  
胸ふたぎ  
色かえて  
涙ぐむ  
過ぎし日の  
おもひでや。

げにわれは  
うらぶれて  
ここかしこ  
さだめなく  
とび散らふ  
落葉かな。

秋の歌  
堀口 大学

秋の  
ヴィオロンの  
節ながき啜泣  
もの憂き哀みに  
わが魂を  
痛ましむ。

時の鐘  
鳴りも出づれば  
せつなくも胸せまり  
思い出づる  
わが来し方に  
涙は湧く。

落葉ならね  
身をば遣る  
われも、  
かなたこなた  
吹きまくれ  
逆風よ。

原詩は、各行4音節だが、上田 敏は5音節で、堀口大学は3、5、7音節で訳している。訳詩の中でアンダーラインを施した箇所は原詩にはないが、前者は古典的で静穏であり、後者はダイナミックである。両者とも、大自然の悲哀と内的宇宙の

悲哀との照応、宇宙の現実と魂の現実の呼応、つまり、「万物照応」(Correspondances)の世界を美しい日本語で表現している。このような詩編の訳は、ある意味で、創作であろう。

シュールレアリストであったポール・エリュアール (Paul Eluard, 1895-1952) は、第二次大戦中、ナチス・ドイツのフランス占領下にあって、愛する女性に捧げるべく詩を書いたが、その題に彼女の名ではなく、祖国の中の異国で死の苦しみに耐えているすべてのフランス人が何を最も待ち望んでいるかを考え、題に“自由”を選んだのである。それによって、個人的な愛が普遍的な愛と結びつき、叙情詩に叙事的な要素が加わることになった。フランスの民衆はナチの暴力による非情な状況にあっても、女性への愛、人間への愛が永遠に途絶えることのないことを証明し、暗闇の時代に“自由”という一つの語(ことば)にすべての希望を託して闘ったのである。

次の引用は、その「自由」(Liberté)と題された有名な詩編の中の二つの詩節である。

Sur chaque bouffée d'aurore  
Sur la mer sur les bateaux  
Sur la montagne démente  
J'écris ton nom

Sur la mousse des nuages  
Sur les sueurs de l'orage  
Sur la pluie épaisse et fade  
J'écris ton nom

ある大学教授の訳を挙げてみよう。

夜明けの風がそよぐ その度ごとに  
海に 船に  
逆上した山に  
私はきみの名を記す

わき立つ雲の泡に  
嵐のしとどな汗に  
厚く色褪せた雨に  
私はきみの名を記す

シュールレアリストの詩ではあるが、イメージはそれほど複雑でも、難解でもないと思う。

上の訳文の「風がそよぐ」、「しとどな」は余計であり、「逆上した」、「雲の泡」、「嵐のしとどな汗」、「色褪せた雨」などの訳語は、直訳に過ぎるのではないか。「逆上した山」ははたして誰にでも理解できるであろうか。また、「私」に対しては、ふつう「あなた」であって、「きみ」に対しては、「ぼく」ではないのか。

次は、筆者の訳である。

曙の ひとつひとつの息吹きの上に  
海の上に 船の上に  
そびえ立つ山の上に  
僕は書く 君の名を

泡立つ雲の上に  
汗のように 吹き出す嵐の上に  
垂れこめて 味気のない雨の上に  
僕は書く 君の名を

(筆者は外国語学部教授)